

全国の10～70代の男女1,000名に聞く
「歯科診療」および「歯科医師」に関する第3回意識調査

77.8%が自分の口腔環境に自信ナシ！

94.8%が歯科医院でのオーラルケアの必要性を実感、35.3%が実際にケア。
「口臭」は、“他人”(64.1%)の方が“自分”(13.5%)よりもずっと気になる！

社団法人日本私立歯科大学協会(東京都千代田区)は、10～70代の幅広い世代の男女1,000名(全国8エリア)に対して、「歯科診療」及び「歯科医師」に関する意識調査を実施しました。2010年、2011年に引き続き、第3回目の調査となります。

調査期間:2012年7月23日(月)～7月25日(水) 調査対象:10～70代の男女1,000名

6割にかかりつけ歯科医院がある(61.5%)。満足度は約80点。

- ◆ かかりつけの歯科医院がある人は、全体の約6割(61.5%)。満足度は約80点(79.7点)。
- ◆ かかりつけ歯科医院を選ぶポイントは「立地」(65.0%)「人柄」(40.2%)「技術」(35.2%)など。
- ◆ かかりつけ歯科医院への通院時間は平均で13.3分。ご近所圏内で気軽に通う。

昨今の歯科医院増加を生活者は歓迎。

- ◆ 「新しい技術や設備を持った歯科医院が増え」(89.3%)、「待ち時間が減り予約を取りやすくなる」(85.5%)し、「近くで評判の良い歯科医院を選べる」(84.9%)のはうれしいメリット。
- ◆ 今はまだ利用が少ない「訪問(在宅往診)歯科診療」も、高齢化する日本に必要な施設(72.8%)。

理想の歯科医師像、女性松嶋菜々子さん、男性向井理さん。

- ◆ 理想の歯科医師は、「人柄が良く」(75.1%)、「丁寧な治療」(72.6%)をしてくれる人。
- ◆ 有名人に例えると、男性トップは2年連続「向井理」さん(66票)、女性では「松嶋菜々子」さん(43票)が初のトップ。
- ◆ 歯科医師の仕事は、「尊敬され」(77.8%)「やりがい」(80.3%)もあり、「高収入」(84.6%)だが、決して楽ではない「ハード」(66.7%)な仕事。

8割が口腔環境に“自信ナシ”(77.8%)。ケアコストは月額1,585円

- ◆ 約8割は自分の口腔環境に「自信ナシ」(77.8%)。歯を見せて笑うことを“避けたい”人が47.2%。
- ◆ 「むし歯」「黄ばみ」(29.3%)、「歯垢・歯石」(26.3%)、「歯並び」(25.0%)が自分の悩み。
- ◆ 歯科医院でのオーラルケア、94.8%が必要だと感じつつ、受診経験は35.3%と3人に1人どまり。
- ◆ オーラルケアにかかる費用は月額平均1,585円。
- ◆ 他人の口腔環境が「気になる」人は約6割(59.4%)で、「口臭」(64.1%)が気になるワーストワン。

< 歯科診療・歯科医師への意識と実態 >

調査の結果、96.6%とほぼ全ての人が歯科医院に通った経験があり、歯科医院に行くタイミングは「痛みを自覚して」(41.1%)治療目的で行く人が多くなっています。しかし、5人に1人は「定期健診の受診」(20.5%)など予防目的で通っており、かかりつけの歯科医院がある人は61.5%にのぼっています。かかりつけの歯科医院での治療内容は、「むし歯の治療」(83.7%)がトップですが、「歯のクリーニング」(65.8%)や「むし歯予防」(41.1%)など、予防歯科としての利用も少なくありません。かかりつけの歯科医院を選ぶ基準は、自宅や勤務先からの「立地」(65.0%)がトップですが、「人柄」(40.2%)や「技術」(35.2%)も重要なチェック項目です。ちなみに、かかりつけの歯科医師には40代の男性医師が多く、その満足度は79.7点となっています。

一般的に歯科医師は「高収入」(84.6%)で「やりがいのある」(80.3%)「尊敬される」(77.8%)職業と認識されており、歯科医院も全体に“良い”(63.7%)イメージが持たれています。

理想の歯科医師は「丁寧な治療」(72.6%)と「高い技術力」(68.0%)で、「治療の説明をきちんとしてくれる」(63.8%)「人柄」(75.1%)の良い先生です。有名人に例えると「向井理」さん(66票)、「福山雅治」さん(47票)、「松嶋菜々子」さん(43票)が理想の歯科医師のイメージです。

歯科医院が今後増えることについては、歓迎する意見が大半を占めています。「新しい技術や設備の歯科医院が増える」(89.3%)、「待ち時間が少なく、予約の取りやすい」(85.5%)歯科医院を「ご近所で選べる」(84.9%)ことがメリットです。また、高齢化する日本において、今後通院できない方への「訪問(在宅往診)歯科診療」の必要性がさらに高まると予想されています。現在の利用者はまだ少ない(5.4%)ものの、これからこういったサービスが提供できる歯科医院が増えることについては、7割が「歓迎する」(72.8%)と答えています。

< オーラルケアへの意識と実態 >

オーラルケアの意識を見ると、自分の歯や口腔環境について、約8割が“自信がない”(77.8%)と答えており、自信を持って歯を見せて笑うことを“避けたい”人は47.2%でした。「むし歯」「黄ばみ」(ともに29.3%)、「歯垢・歯石」(26.3%)、「歯並び・噛み合わせ・すき歯」(25.0%)などが悩みで、「歯ブラシでの歯磨き」(78.9%)をはじめ、「歯間ブラシやデンタルフロス」(35.7%)や「マウスウォッシュ」(25.0%)を使ったり、4人に1人は「舌の掃除」(24.6%)にも取り組んでいます。

自分でできるケアだけでなく、94.8%が歯科医院でのオーラルケアが「必要」と考えており、実際、3人に1人(35.3%)は歯科医院でのオーラルケアを受診しています。受診内容は「歯垢・歯石除去」(92.6%)が最も多く、「むし歯のチェック」(66.0%)、「歯磨き指導」(58.9%)、「歯周病のチェック・予防」(56.7%)などです。歯科医院でオーラルケアを受けない理由は、「通院が面倒だから」(63.8%)、「費用がかかるから」(46.1%)、「通院の時間がとれないから」(31.1%)となっています。

歯科医院でのケアとセルフケアを含めたオーラルケアにかかる費用は、月額平均1,585円。男女別に見ると、男性1,624円、女性1,547円となり、男性の方が費用がやや高くなっています。

最後に他人の口腔環境が気になるかどうか聞くと、約6割が「気になる」(59.4%)と答えており、気になる項目ワーストワンは「口臭」(64.1%)です。自分の口臭で悩む(13.5%)よりも他人の口臭が圧倒的に気になる結果でした。口臭は自分では気づかなくても、周りの人に迷惑をかけている可能性が高い、やっかいな存在です。

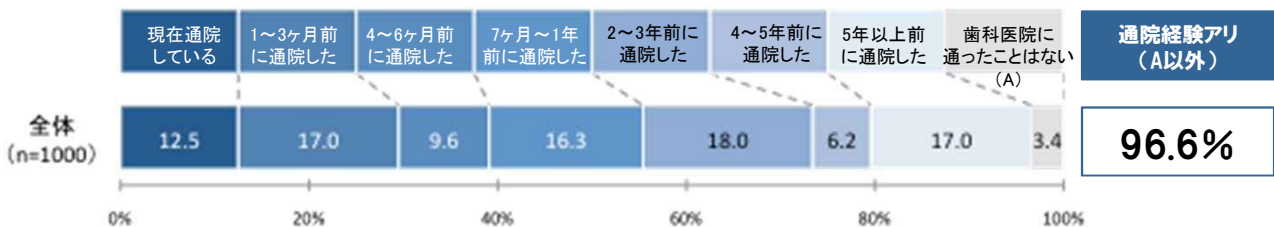
歯科医院とのつきあい方

- ◆ 歯科医院に「通ったことがない」人は3.4%。96.6%と大多数が通院経験者。
- ◆ 歯科医院へは「痛みなど自覚して」(41.4%)治療目的で通う人が多いが、定期健診など「定期的に受診」(20.5%)する予防目的の人も5人に1人。

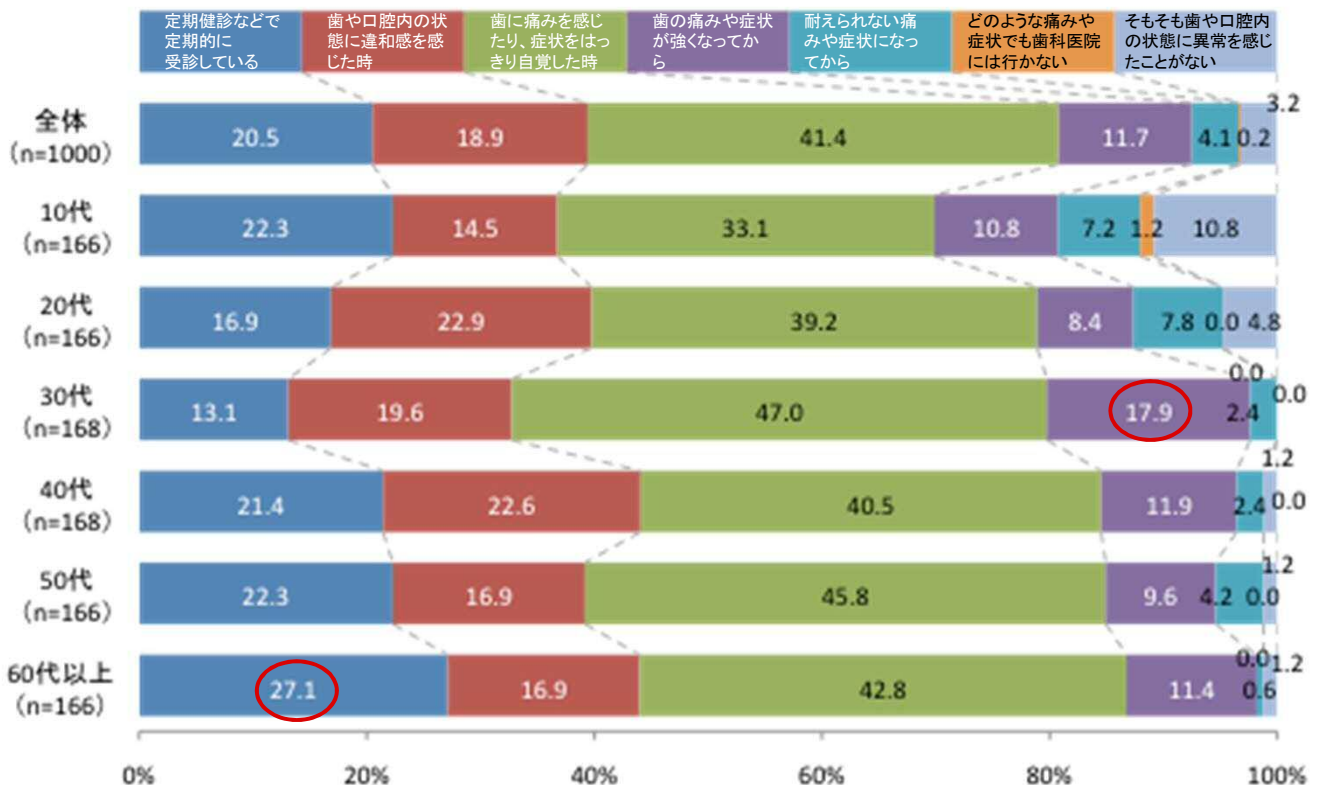
まず、歯科医院への通院経験を聞いたところ、96.6%とほとんどの人が歯科医院に通ったことがあり、約1割(12.5%)の人が「現在通院中」です[グラフ1]。

歯科医院に行くのは「歯に痛みを感じたり、症状をはっきり自覚した時」(41.4%)が最も多く、「歯や口腔内の状態に違和感を感じた時」(18.9%)、「歯の痛みや症状が強くなってから」(11.7%)など、痛みを感じてから“治療”目的で通うことが一般的ですが、5人に1人(20.5%)は「定期健診などで定期的に受診」と“予防”目的で定期的に通っています。30代は毎日忙しいせいか、「歯の痛みや症状が強くなってから」(17.9%)やっと思う人が他の年代と比べて多いのに対し、60代では「定期健診」(27.1%)で定期的に受診する人が多くなっています[グラフ2]。

グラフ1: 歯科医院の通院経験



グラフ2: どのような時に歯科医院に行くか



かかりつけ歯科医院とのつきあい方

◆約6割(61.5%)にかかりつけの歯科医院がある。

◆「自動車」(50.0%)や「徒歩」(33.8%)で気軽に通える、平均13.3分のご近所圏内。

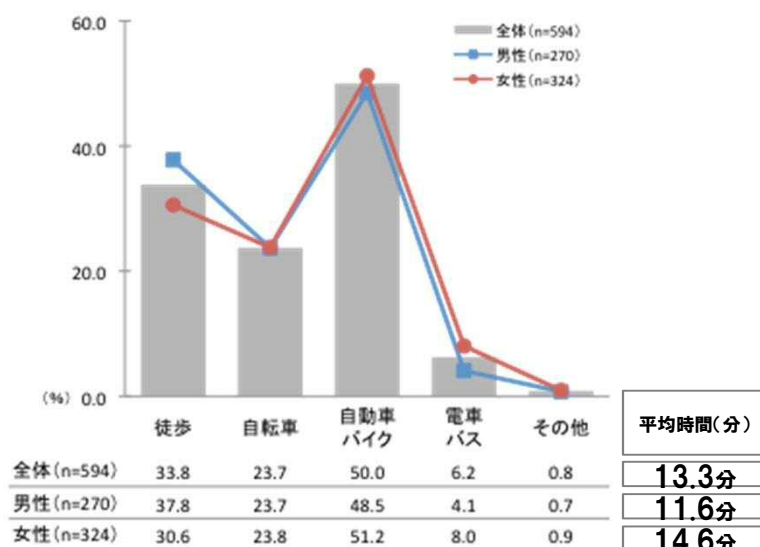
かかりつけの歯科医院があるかどうか聞いたところ、6割(61.5%)が「ある」と答えています。男性(56.3%)より女性(66.7%)の方がかかりつけ歯科医院が「ある」人が多く、40代以降は60%以上となっています[グラフ3]。

かかりつけの歯科医院に行く交通手段は、「自動車・バイク」(50.0%)が「徒歩」(33.8%)が多く、平均時間は13.3分となり、自宅や勤務先の近所にかかりつけの歯科医院があることがわかります。日本人にとって歯科医院は身近で通いやすい存在になっているようです[グラフ4]。

グラフ3:かかりつけの歯科医院の有無



グラフ4:かかりつけの歯科医院に行く交通手段(複数回答)とかかる時間



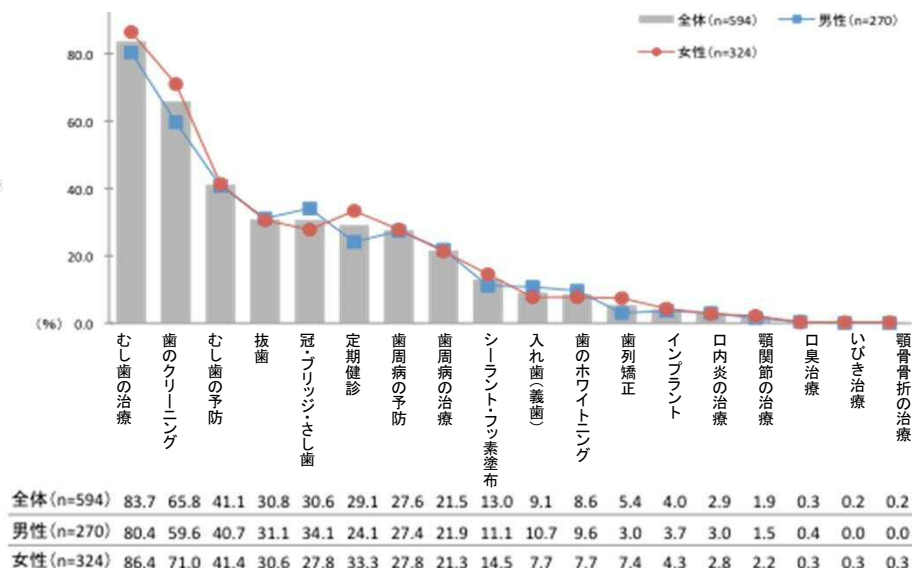
◆かかりつけ歯科医院で受ける治療トップスリー

①「むし歯治療」(83.7%) ②「クリーニング」(65.8%) ③「むし歯予防」(41.1%)

かかりつけの歯科医院で受けたことのある治療は「むし歯治療」(83.7%)、「歯のクリーニング(歯石・歯垢除去)」(65.8%)、「むし歯予防」(41.1%)の順となっています。

他の年代と比べると、10代は「歯列矯正」(16.9%)が多く、20代は「むし歯予防」(55.7%)が多いのに対し、60代以上では「冠・ブリッジ・差し歯」(49.3%)や「歯周病予防」(40.3%)が多くなっています[グラフ5]。

グラフ5:かかりつけの歯科医院で受けたことのある治療(複数回答)



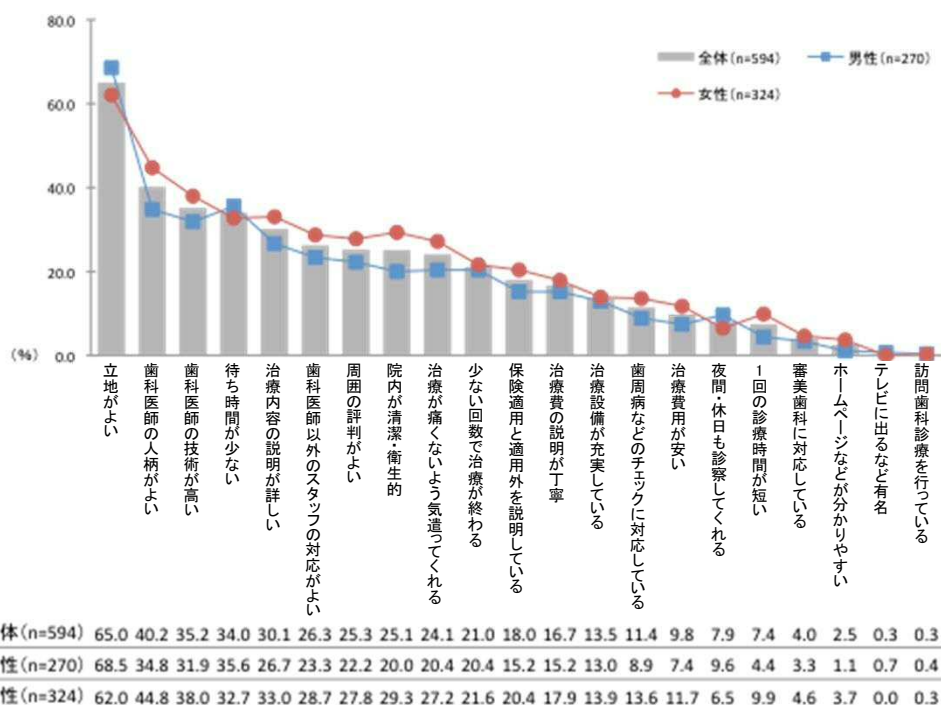
◆かかりつけ歯科医院を選ぶ基準トップスリー

「立地」(65.0%)「人柄」(40.2%)「技術」(35.2%)。上の世代ほど基準も厳しく。

かかりつけの歯科医院を選ぶ際の重視点は、自宅や勤務先からの「立地」(65.0%)、歯科医師の「人柄」(40.2%)、「技術」(35.2%)、「待ち時間が少ない」(34.0%)、「治療内容の説明が詳しい」(30.1%)の順でした。

10代・20代に比べると40代以降はチェック項目が総じて多く、かかりつけ歯科医院へのリクエストが高くなる傾向が見受けられます[グラフ6]。

グラフ6:かかりつけの歯科医院を選ぶ際の重視点(複数回答)



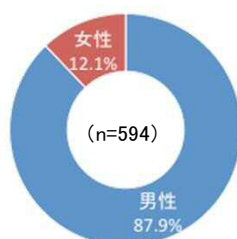
◆かかりつけの歯科医師は、男性、40代が多い。

◆かかりつけ歯科医院の満足度は平均79.7点。昨年同様70点代後半で高止まり。

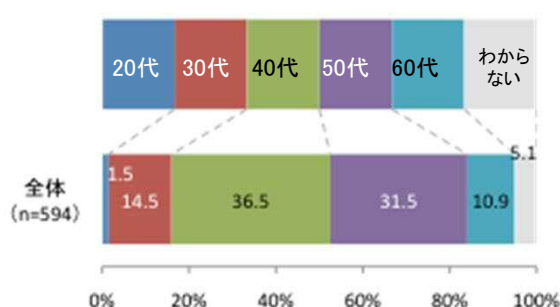
かかりつけの歯科医師は、「男性」(87.9%)の先生が約9割で[グラフ7]、先生の年代は「40代」(36.5%)から「50代」(31.5%)が多くなっています[グラフ8]。

かかりつけの歯科医院への満足度を聞くと、全体平均で79.7点となり、性別や年代による違いはほとんどなく、どの世代も等しく満足しています[グラフ9]。前回(平均79.3点)より微増しており、歯科医院への満足度は約80点で高止まりしているようです。

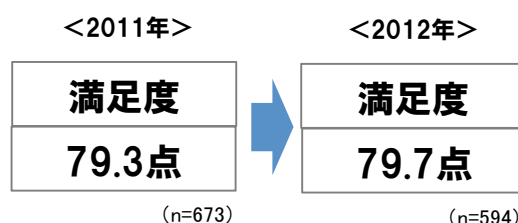
グラフ7:かかりつけの歯科医師の性別



グラフ8:かかりつけの歯科医師の年代



グラフ9:かかりつけ歯科医院の満足度

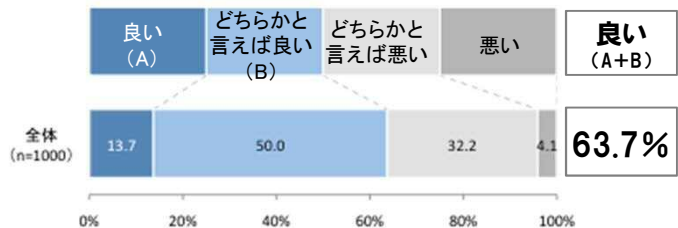


歯科医院・歯科医師のイメージ

- ◆歯科医院は、全体に“良い”(63.7%)イメージ。
- ◆職業としては、「高収入」で「やりがいのある」「尊敬される」「将来性のある」仕事。
前回調査よりポジティブなイメージがより強まっている。

歯科医院のイメージを聞くと、全体で6割を超える人が“良い”(63.7%)イメージを持っています[グラフ10-1]。

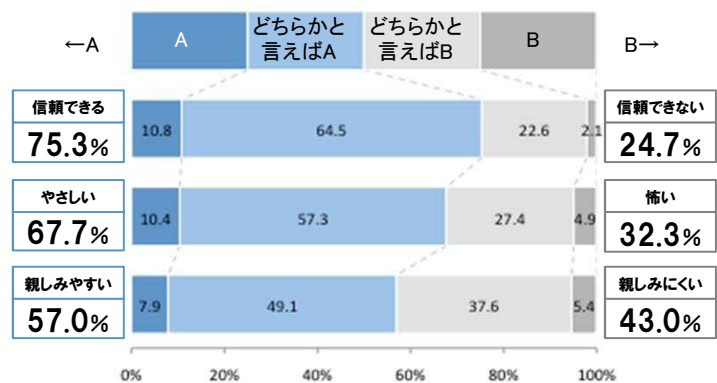
グラフ10-1: 歯科医院のイメージは良いか悪い



次に歯科医師はどんなイメージなのか、3項目について、AとBの相反する選択肢から自分の評価に近いものを選択してもらいました。

その結果、歯科医師は「信頼できる」(75.3%)が最も高く、「やさしい」(67.7%)、「親しみやすい」(57.0%)というイメージで捉えられていることがわかりました[グラフ10-2]。

グラフ10-2: 歯科医師のイメージ



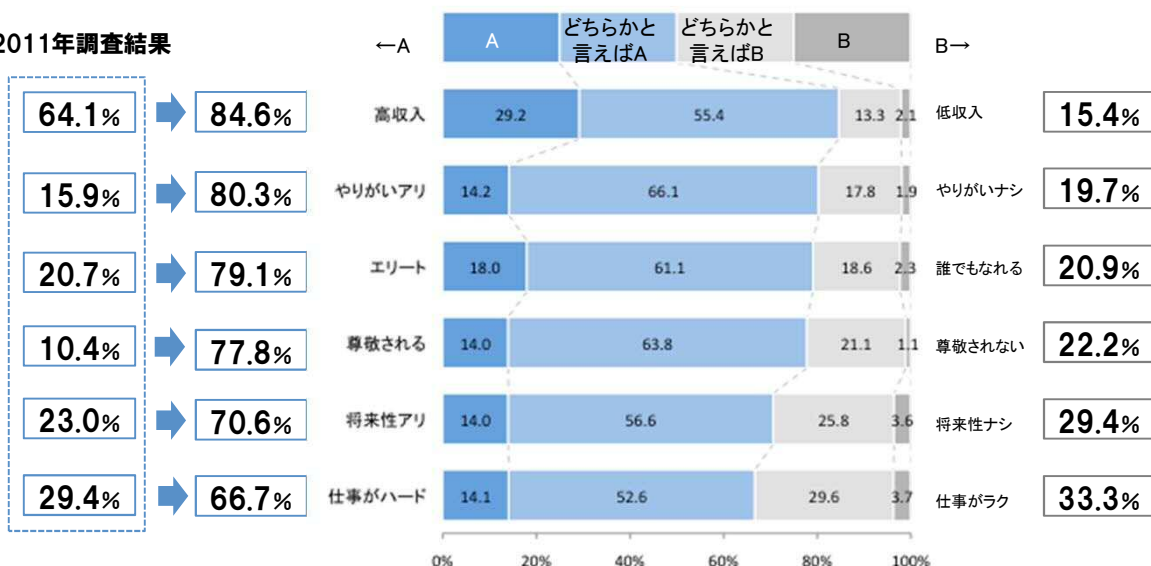
では、職業として捉えた場合はどのような評価になるのでしょうか。6項目について、AとBの相反する選択肢から、自分の評価に近いものを選択してもらいました。

その結果、歯科医師は「高収入」(84.6%)で「やりがいがある」(80.3%)仕事だと評価されています。また、選ばれた「エリート」(79.1%)だけがなれる「尊敬される」(77.8%)職業で、「将来性がある」(70.6%)と認識されていますが、一方、その責任感の重大さから「仕事はハード」(66.7%)と厳しさも理解されているようです[グラフ11]。

前回調査では複数回答形式で聞いたため一概には比較できませんが、<A>のポジティブな項目が大きく数字を伸ばしており、歯科医師のイメージはポジティブなものになっているようです。

グラフ11: 歯科医師の職業としてのイメージ

2011年調査結果

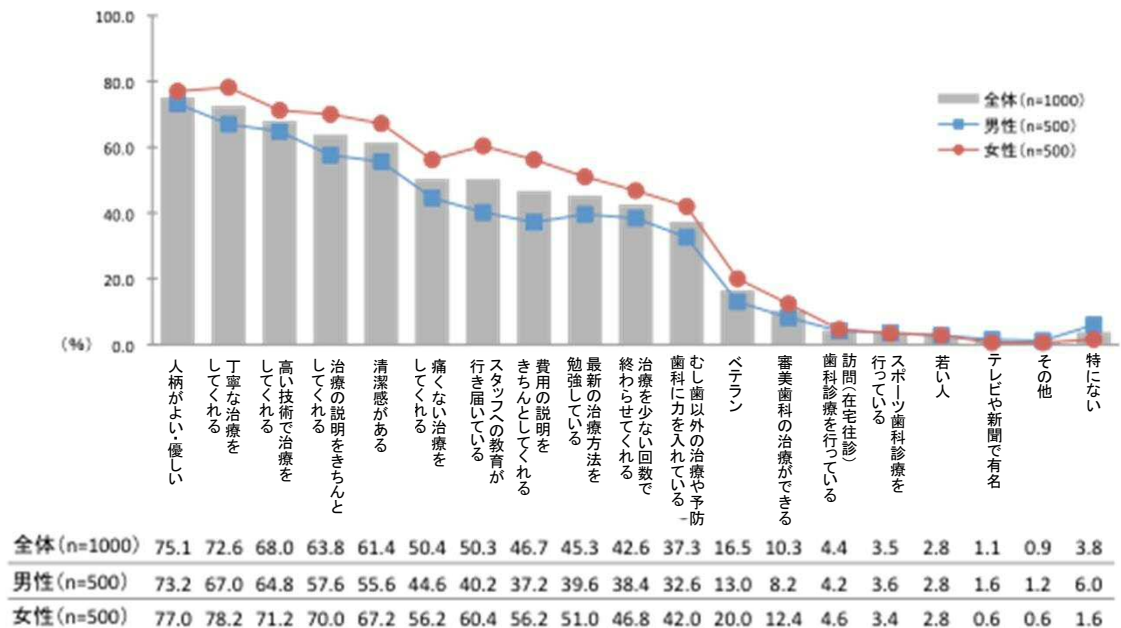


理想の歯科医師

◆理想の歯科医師の三大条件「良い人柄」、「丁寧な治療」、「高い技術力」。

理想の歯科医師像を聞くと、「丁寧な治療をしてくれる」(72.6%)を僅差で抑えて、「人柄がよい」(75.1%)がトップとなりました。次いで「高い技術で治療してくれる」(68.0%)、「治療の説明をきちんとしてくれる」(63.8%)、「清潔感がある」(61.4%)の順となっています。全体的に男性より女性の方がポイントが高く、歯科医師へより高いリクエストをしていることがわかります[グラフ12]。

グラフ12:理想の歯科医師の条件(複数回答)



◆こんな歯科医師に診て欲しい 有名人に例えると「向井理」さん(66票)が第1位

この人だったら診てもらいたいと思う有名人をあげてもらったところ、全体では、これまで2年連続第1位の「天海祐希」さん(40票)にかわり、「向井理」さん(66票)が第1位に輝きました。女性では去年3位の「松嶋菜々子」さん(43票)が1位に、男性は「向井理」さんと「福山雅治」さん(47票)が去年に続き今年もトップです[表13]。

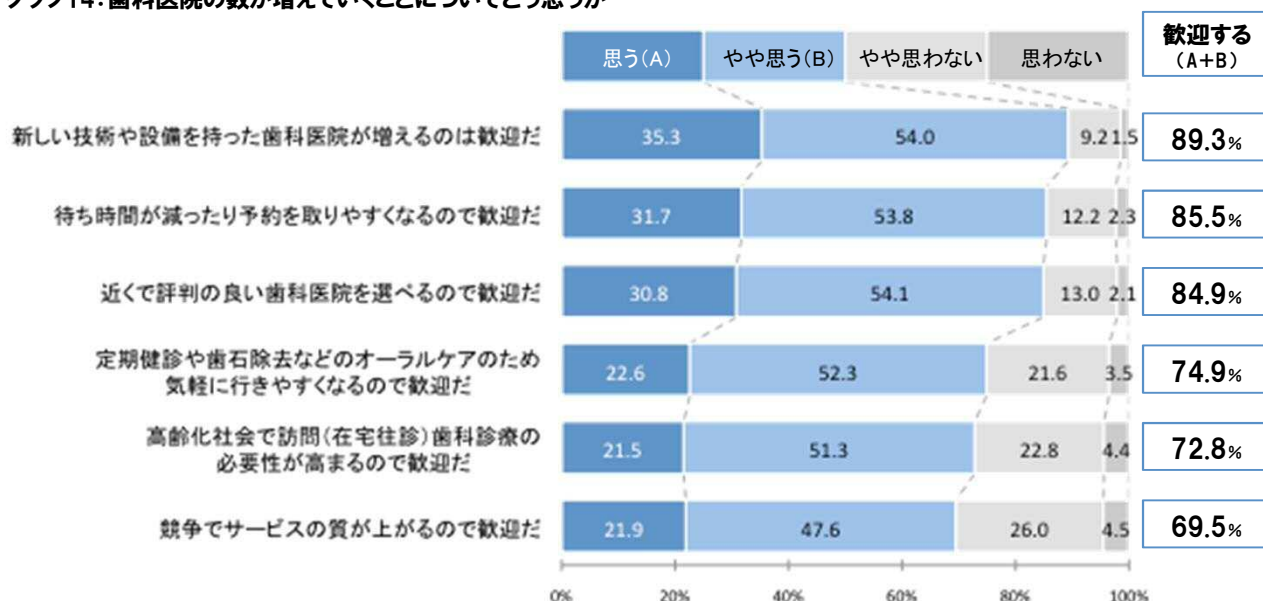
		2010年	得票	2011年	得票	2012年	得票
女性有名人	1位	天海祐希	68	天海祐希	92	松嶋菜々子	43
	2位	松嶋菜々子	52	真矢みき	42	天海祐希	40
	3位	黒木瞳	37	松嶋菜々子	32	黒木瞳	33
	4位	真矢みき	31	藤原紀香	18	仲間由紀恵	25
	5位	西川史子	25	黒木瞳	17	綾瀬はるか	23
男性有名人	1位	福山雅治	57	向井理	51	向井理	66
	2位	江口洋介	31	福山雅治	42	福山雅治	47
	3位	木村拓哉	24	大沢たかお	20	阿部寛	22
	4位	阿部寛	24	西田敏行	16	イチロー	21
	5位	高橋英樹	16	竹野内豊	12	タモリ	20

歯科医院の将来

◆歯科医院が増えると、「新しい技術や設備の歯科医院が増える」「予約が取りやすくなる」「近所で評判の歯科医院を選べる」など全体的に歓迎ムード。

昨今、歯科医院が増えていることについては、「新しい技術や設備を持った歯科医院が増えるのは歓迎」（89.3%）という意見を筆頭に、「待ち時間が減ったり予約を取りやすくなるので歓迎」（85.5%）、「近くで評判の良い歯科医院を選べるので歓迎」（84.9%）など、おおむね歓迎ムードです[グラフ14]。生活者の6割にかかりつけ歯科医院がある現代、歯科医院が増えることで、さらに身近で頼もしい歯科環境が形成されることが望まれています。

グラフ14: 歯科医院の数が増えていくことについてどう思うか

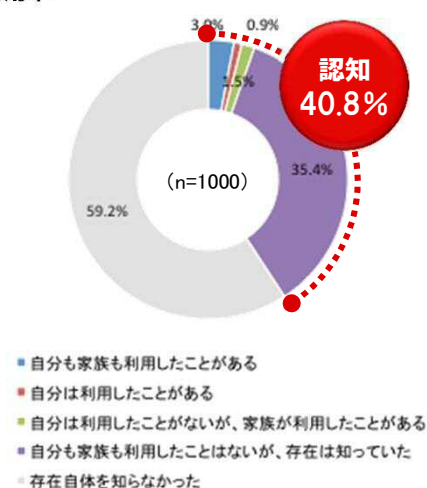


◆高齢化社会で重要な訪問歯科診療。受診経験者は少ないが、約4割が認知。

高齢化する日本において、将来的に、通院ではなく、歯科医師や歯科衛生士・歯科技工士が、自宅に来て診療してくれる「訪問(在宅往診)歯科診療」が増えると考えられ、上記の調査結果では72.8%が歓迎しています。

現時点での利用・認知状況を聞くと、訪問(在宅往診)歯科診療を自分または家族が利用したことがある人はわずか5.4%と少数ですが、約4割(40.8%)が存在を「知っている」と答えています[グラフ15]。

グラフ15: 訪問(在宅往診)歯科診療の利用率

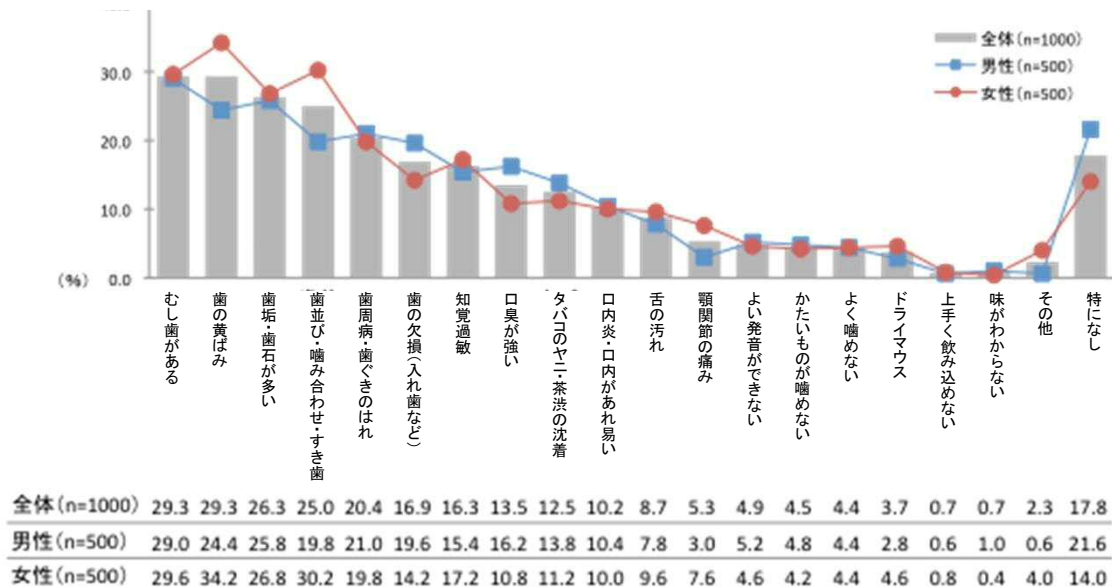


オーラルケアの実態 日本人のお口の悩み

- ◆「むし歯」「黄ばみ」「歯垢・歯石」が歯や口腔の悩みワーストスリー。
- ◆女性は歯の見た目、男性は口臭がより気になるポイントに。

現在の歯や口腔内の健康の悩みを聞くと、「むし歯」「歯の黄ばみ」(ともに29.3%)、「歯垢・歯石」(26.3%)、「歯並び・噛み合わせ・すき歯」(25.0%)の順となっています。「歯の黄ばみ」(男性24.4%<女性34.2%)や「歯並び・噛み合わせ・すき歯」(男性19.8%<女性30.2%)などの見た目は女性の方が気にする度合いが高く、「口臭」(男性16.2%>女性10.8%)は女性より男性の方が気にしているようです[グラフ16]。

グラフ16: 歯や口腔の健康に関する悩み(複数回答)

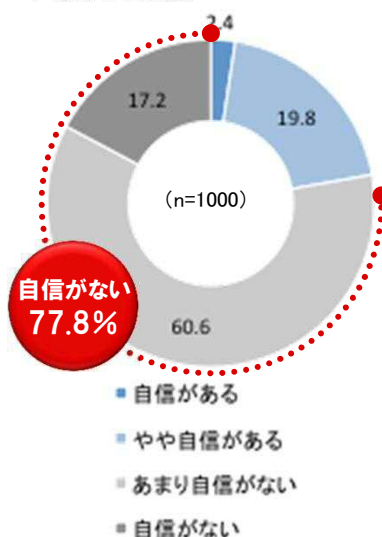


- ◆自分の歯や口腔の健康には「自信がない」人が約8割(77.8%)。
- ◆自信を持って歯を見せて笑うことが「できる」人はわずか12.6%。

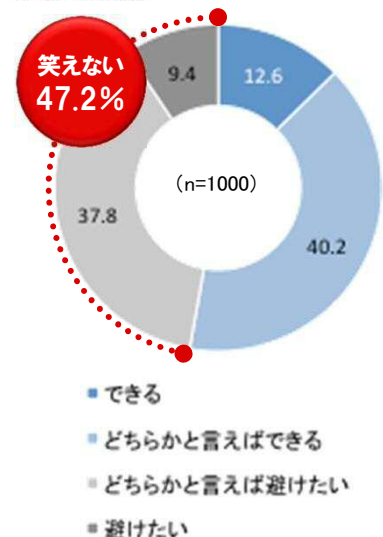
ほとんどの人が歯科医院に通った経験がありますが、自分の歯や口腔の健康に「自信がある」と答えた人はわずか2.4%で、約8割(77.8%)は“自信がない”と答えています[グラフ17]。

また、歯を見せて笑うことについても、自信を持って「できる」(12.6%)と答えた人は1割程度で、半数の人は“避けたい”(47.2%)と答えています。

グラフ17: 歯や口腔の健康に関する自信度



グラフ18: 自信を持って歯を見せて笑うことができるか



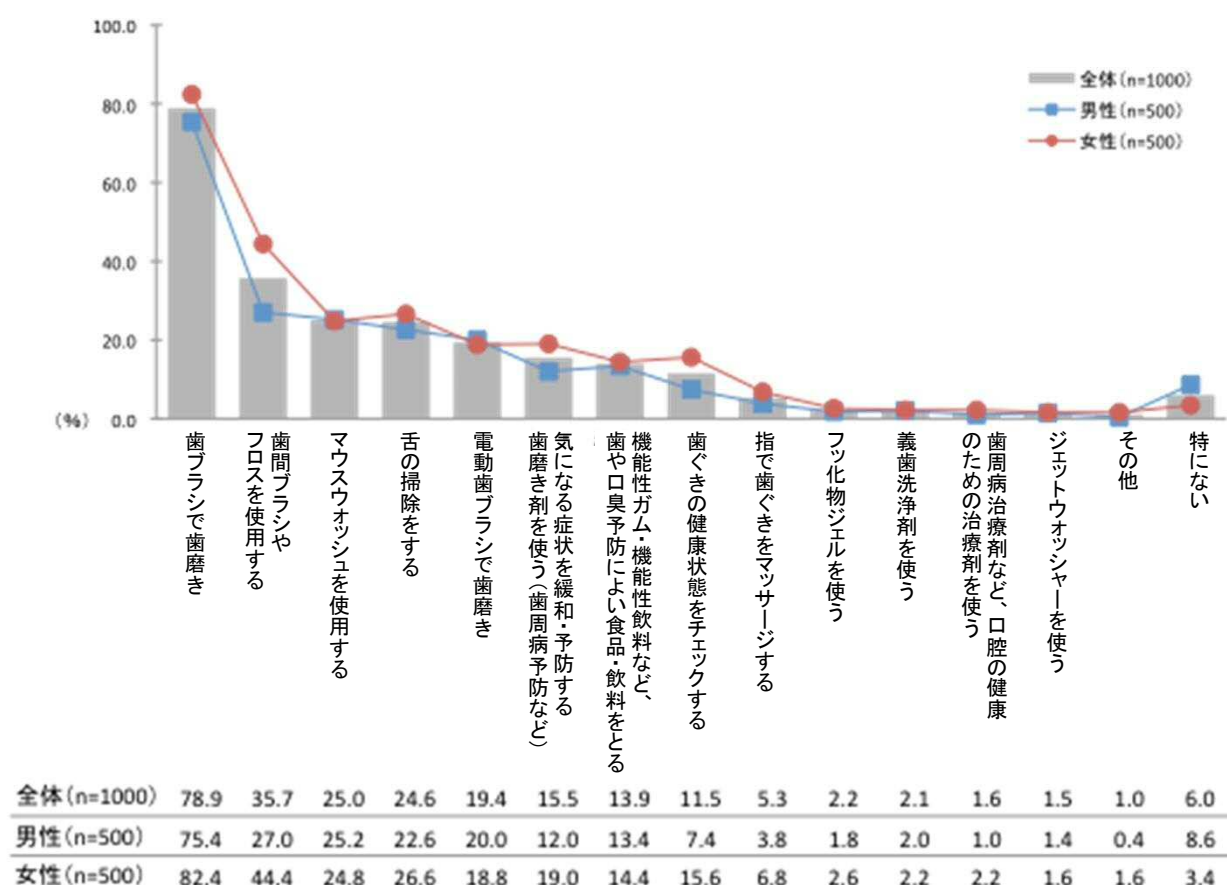
オーラルケアの実態 自宅でのオーラルケアと歯科医院でのオーラルケア

◆自分で行うオーラルケアは、「歯ブラシでの歯磨き」、「歯間ブラシ・フロス」、「マウスウォッシュ」など。男性より女性の方がケアに熱心。

ここからはオーラルケアについて見ていきます。オーラルケア【oral care】とは、口腔内のケア、つまり歯や歯ぐき、舌などを清潔にし、健康的に保つことを指します。オーラルケアの実施は、歯周病など口腔の病気や口臭の予防につながると同時に、糖尿病など全身病の改善や誤嚥性肺炎の予防に役立ちます。

オーラルケアとして自分で行っていることは、「歯ブラシで歯磨き」(78.9%)が最も多く、「歯間ブラシやフロスを使用する」(35.7%)、「マウスウォッシュを使用する」(25.0%)、「舌の掃除をする」(24.6%)の順となっています。全体的に、男性より女性の方が、また若い年代より上の年代の方が、オーラルケアの実践度が高くなっています[グラフ19]。

グラフ19: 自分で行っているオーラルケア(複数回答)

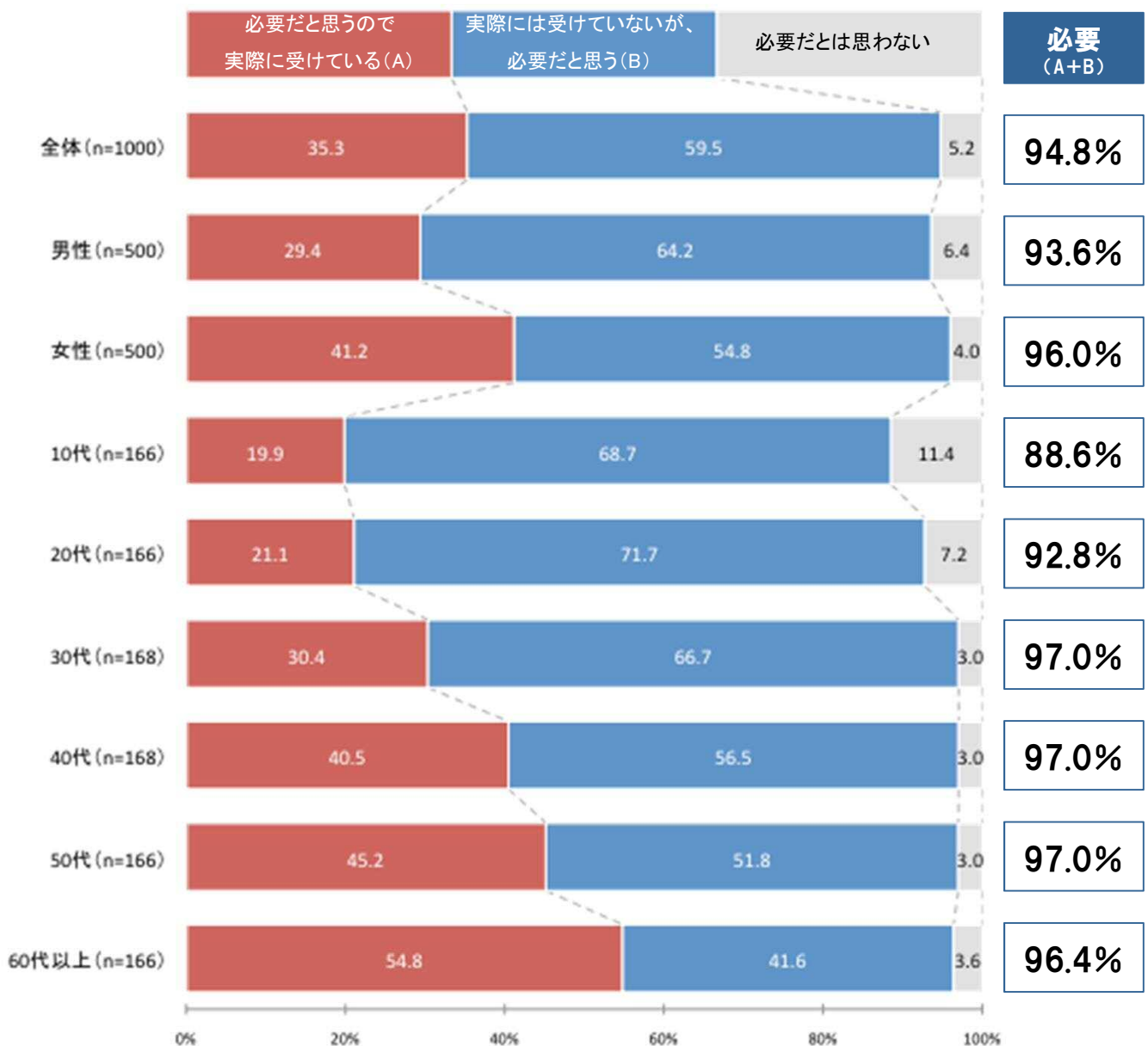


オーラルケアの実態 歯科医院でのオーラルケア

- ◆歯科医院でのオーラルケア、9割以上が「必要」(94.8%)と回答。
- ◆3人に1人が受診(35.3%)するも、「必要だと思うが、受けていない」が6割近く。

歯科医院でのオーラルケアは、3人に1人(35.3%)が「必要だと思うので、実際に受けている」と答えています。6割近く(59.5%)の人は「実際には受けていないが、必要だと思う」と答えており、合わせて94.8%が歯科医院でのオーラルケアが必要だと認識しています。今後歯科医院によるオーラルケアや予防歯科は、さらに重視されることが予想できます。傾向として、男性よりも女性の方が、また、年代が高くなるほど、歯科医院でのオーラルケアを受診しています[グラフ20]。

グラフ20: 歯科医院でオーラルケアを受けることをどう思うか



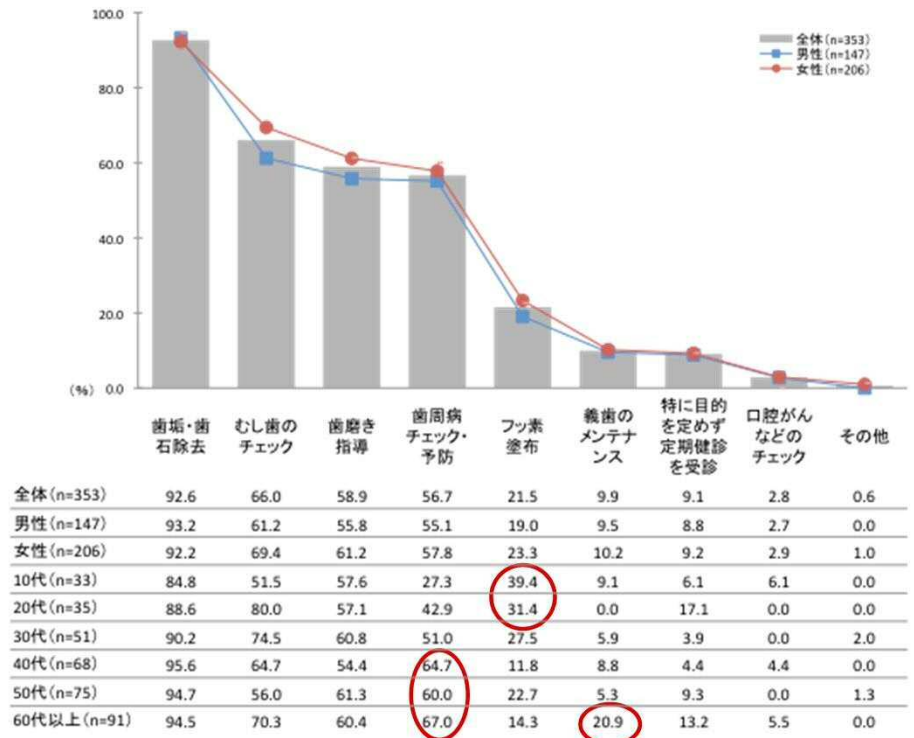
歯科医院でのオーラルケア 受ける内容、受けない理由

- ◆ 歯科医院で行うオーラルケアは、「歯垢・歯石除去」(92.6%)がトップ。
- ◆ 若年層は「フッ素塗布」が多く、熟年層は「歯周病チェック」「義歯のメンテ」も。

歯科医院でオーラルケアを受けている人(353名)にその内容を聞くと、「歯垢・歯石除去」(92.6%)が最も多く、次いで「むし歯のチェック」(66.0%)、「歯磨き指導」(58.9%)、「歯周病のチェック・予防」(56.7%)の順となっています。

「フッ素塗布」は10代(39.4%)・20代(31.4%)に多く、60代は「義歯のメンテナンス」(20.9%)が他の年代と比べて多くなっています。また40代以降で「歯周病チェック・予防」を受診する人が6割を超え、高くなっています[グラフ21]。

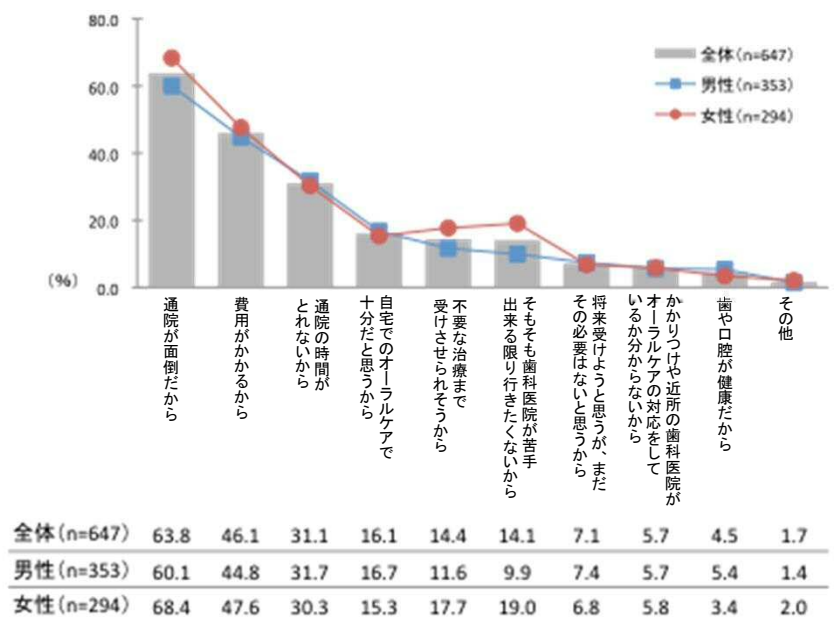
グラフ21: 歯科医院で受けることのあるオーラルケア(複数回答)



- ◆ 歯科医院でオーラルケアを受けない三大理由
「通院が面倒」(63.8%)「費用がかかる」(46.1%)「時間がとれない」(31.1%)

一方、歯科医院でオーラルケアを受診していない人(647名)に、受診しない理由を聞くと、「歯や口腔が健康だから」という人は僅か4.5%で、「通院が面倒だから」(63.8%)、「費用がかかるから」(46.1%)、「通院の時間がとれないから」(31.1%)が主な理由です[グラフ22]。

グラフ22: 歯科医院でオーラルケアを受けていない理由(複数回答)



オーラルケアにかかる費用

◆オーラルケアにかかるお金の平均額は、1,585円/月。

◆いちばん費用をかけている60代女性(平均2,198円)と、いちばんかけていない10代女性(平均1,194円)では、月額1,000円もの差。

歯科医院や自宅で行うオーラルケアについて、1ヶ月にかけている金額を聞くと、全体平均で1,585円となりました。60代が最も高く、60代男性が2,140円、60代女性が2,198円となり、最も低い10代女性(1,194円)と1,000円近い差があります。

男女差でみると、オーラルケア意識や実践度は女性の方が高めでしたが、月額費用については、男性1,624円、女性1,547円となり、男性の方が費用が高くなっています。日頃のケアや意識が低い分、費用がかかってしまうのかもしれません[表23]。

表23: 1ヶ月にオーラルケアにかけている金額

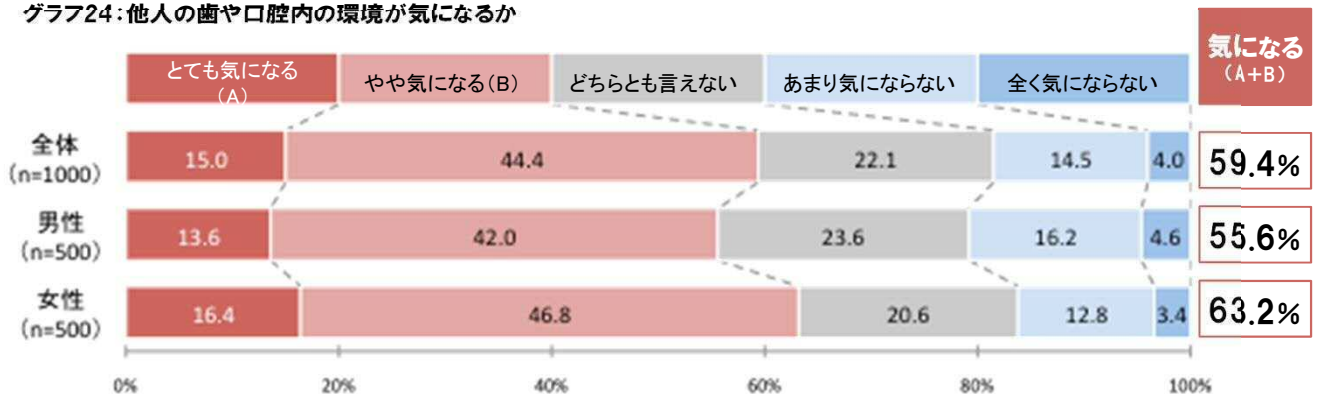
全体(n=1000)	1,585円
男性(n=500)	1,624円
女性(n=500)	1,547円
男性10代(n=83)	1,750円
男性20代(n=83)	1,251円
男性30代(n=84)	1,281円
男性40代(n=84)	1,749円
男性50代(n=83)	1,573円
男性60代(n=83)	2,140円
女性10代(n=83)	1,194円
女性20代(n=83)	1,496円
女性30代(n=84)	1,345円
女性40代(n=84)	1,156円
女性50代(n=83)	1,901円
女性60代(n=83)	2,198円

気になる！他人の口腔環境

- ◆「他人の歯や口腔内の環境が気になる」人は約6割(59.4%)。
- ◆「口臭」は、自分(13.5%)が気になる以上に、他人(64.1%)が気になるもの。

他人の歯や口腔内の環境が気になるかどうか聞いてみると、約6割の人が「気になる」(59.4%)と答えており、男性(55.6%)より女性(63.2%)の方が気になる割合が高くなっています[グラフ24]。

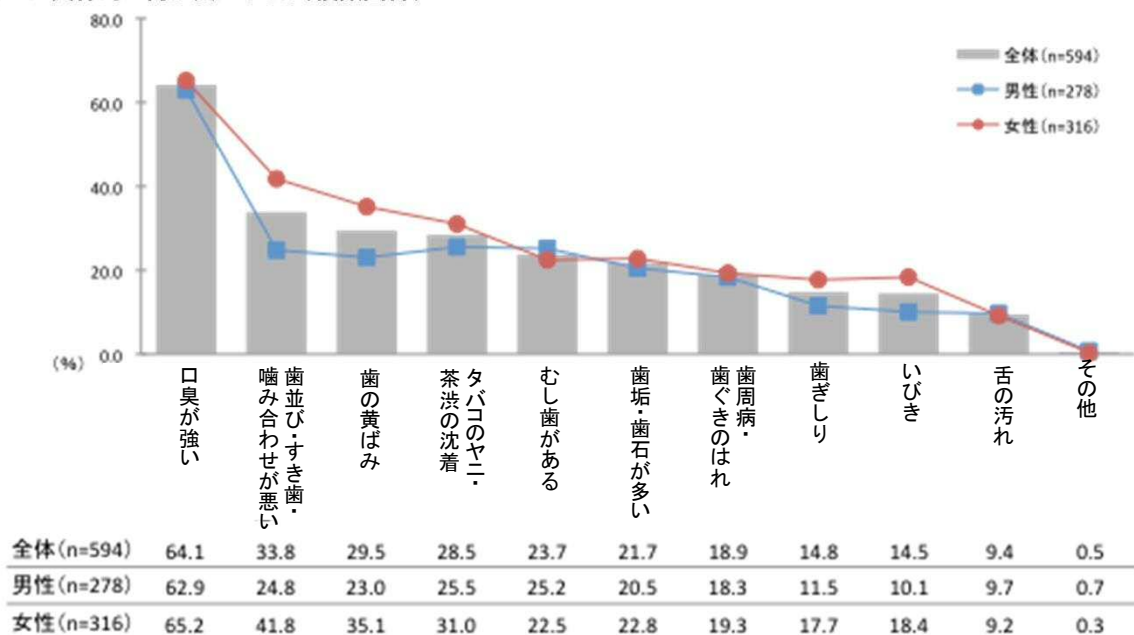
グラフ24：他人の歯や口腔内の環境が気になるか



具体的に気になる項目をあげてもらうと、「口臭が強い」(64.1%)がワーストワンで、次いで「歯並び、すき歯、噛み合わせ」(33.8%)、「歯の黄ばみ」(29.5%)、「たばこのヤニ・茶渋の沈着」(28.5%)、「むし歯がある」(23.7%)の順で、男性より女性の方が気にするポイントが多くなっています[グラフ25]。

他人の口腔環境で気になるワーストワンの「口臭」(64.1%)は、自分の口臭で悩む(13.5%)以上に気になるもので、50ポイントもの大差がついています[グラフ16参照]。自分では気づいてなくても、他人からは気にされている口腔トラブルが潜んでいるかもしれません。歯科医院を定期的に受診して早めのチェックでお口のマナー違反にならないよう心がけましょう。

グラフ25：具体的に何が気になるか(複数回答)



<社団法人日本私立歯科大学協会について>

社団法人日本私立歯科大学協会(中原泉会長、所在地:東京都千代田区)は、全国17の私立歯科大学・歯学部によって、昭和51年に設立されました。

同協会は歯科医学、歯科医療等の現状および将来展望などの情報を社会へ発信すること、私立歯科大学・歯学部における教育、研究、臨床、管理運営、教職員・学生の福祉厚生等に関する調査研究、加盟大学教職員の研修・交流および歯学教育における国際交流などの多様な活動を推進しています。

ホームページ: <http://www.shikadaikyo.or.jp/outline/index.html>